

都道府県学習のすすめ

北海道札幌市立美香保中学校 飯塚 崇教

1 はじめに

中学校の現行の学習指導要領に基づいて、本校では、右の社会科年間学習計画表（平成19年度）の中学校1年の赤枠で示している時期に「都道府県」に関連する学習をしている。

ただし、本校の社会科カリキュラムは、1、2年で地理と歴史を並行しておこなう方式であるので、札幌市内および道内の他の地域と履修時期が異なることがあることもあらかじめ考慮してご覧いただきたい。

また、中学校においても「基礎・基本となる知識の習得」については、新学習指導要領でさらに重視されることになり、扱う地域もふえてくることが予想されるが、小学校から入学したばかりの1年生に対して、現行のカリキュラムでの扱いでは、理解がまだ不十分であると感じている先生が少なくはないであろう。

2 都道府県の学習で扱う地域について

札幌市の教育課程の基底では、第1編の3章『日本のすがたとさまざまな地域』で、まず、2大区分（東日本と西日本）と8地方区分をおさえ、都道府県についてはどの地域に重点をおくという扱いではなく、特色ある都道府県の名前や県庁所在地、基本データの比較として面積・人口の大きい県と小さい県のベスト5程度を取り扱うこととしている。また、歴史との関連で、昔の地名（江戸時代）との比較をすること、都道府県の位置や形に注目しながら都道府県マークを使って多くの都道府県の特色を知ること、日本全図や各地域の略地図を描いて位置関係を理解するなど、多面的・多角的に理解していく学力が求

平成19年度 社会科年間学習計画表

第1学年 社会科		105 単位時間		
月	時	地理（単元の時数）	歴史（単元の時数）	
4	9	第1編1章 地球のすがた…5		
5	9	2章 世界のすがたとさまざまな地域…9		
6	12	3章 日本のすがたとさまざまな地域…9		
7	9	第2編1章 身近な地域の調査 ①札幌市東区…7 ②土地利用図…4		
8	9	2章 都道府県の調査 ①北海道…6		
10	12	フィールドワーク（総合6）		1章 歴史の流れと地域の歴史…5
11	12			2章 古代国家と東アジア…14
12	9			3章 武家政治と東アジア…14
1	6			4章 武家政治の発展と世界の動き…20
2	12			
3	6	②福岡県…6 ③東京都…6		
年間時数		地理 52 単位時間		歴史 53 単位時間

※○編○章は、教科書の単元区分の番号です。

められている。

第2編の2章『都道府県の調査』では、地元の「北海道地方」の他に、一つまたは二つの都道府県を扱うこととしているが、本校では「福岡県」と「東京都」を扱い、テーマ追究学習の方法や視点を育てる典型地域として基本となる県勢データ・自然・歴史・産業・行政などを各単元6時間扱いで学習している。

3 中学校の観点別評価の規準

次に本校の社会科1年生の観点別評価規準を例に、小学校の学習との関連や違いを比較していただきたい。なお、現行学習指導要領では、(関心・意欲)(思考・判断)(技能・表現)(知識・理解)の4観点をABCの3段階で評価したものを総括し、各学期ごとに5段階に評定をしている。新学習指導要領において、観点の一部の変更も見込まれるが、観点の内容自体は大きく変わらないと考えられる。

まず、1学期の学習単元『日本の地域構成』では、「意欲的に地図帳を使って調べようとしている。」(関心・意欲)、「都道府県の位置関係がわかる。」(思考・判断)、「日本の略地図が描ける。」(技能・表現)、「都道府県の特徴を理解している。」(知識・理解)となっている。

この学習の評価で留意していることは、地理の授業において、空間のイメージをどのように形成するかということである。都道府県パズルを組み立てることで楽しみながら覚える方法も有効なのですが、記憶として頭にとどめておくには、何度も略地図を自分で描いて、今どこに「自分の立ち位置」をにおいて学習しているのかを意識させる習慣が重要であるととらえている。それは、数年前に参加したマップスキル研究会^{*1}で、香川幹一先生の著書『略地図描法』^{*2}が紹介された時に、自身が大学時代に読んでその内容に感銘を受けた記憶がよみがえり、地理の面白さの原点をあらためて確認でき、その思いが今の指導にもつながっていることを強く確信できたからである。

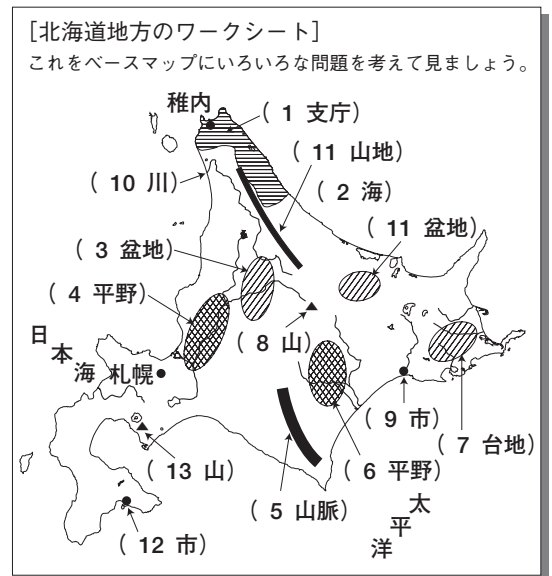
次に、2、3学期の学習単元『都道府県の調査』は、「意欲的に地図帳を使って調べようとしている。」(関心・意欲)、「統計資料を読み取り、特色をとらえることができる。」(思考・判断)、「都道府県に関する統計グラフが作成できる。」(技能・表現)、「北海道・福岡

県・東京都の基本データを理解している。」(知識・理解)という評価規準となっている。

とくにこの部分の扱いは、それぞれの中学校の社会科の先生の創意工夫によって構成されている部分であり、それだけに「基本的な知識の習得」には、かなりの到達度の幅が生じているのではないだろうか。

この学習の評価の留意点として、「福岡県」や「東京都」などの他の都府県を学習する場合は、最初に生徒全員が地図帳を使って、その都県のある8地方区分の範囲で九州地方、関東地方の都府県名とおもな地名を記入する白地図のワークシートに取り組み。そして、その地図をベースマップとして、基本データである面積・人口・農業地域・工業地帯や工業都市などの分布の情報をのせた略地図としてまとめていく。統計資料は特徴がよくあらわれている部分をできるだけ簡略にわかりやすい表現におきかえる資料作成をする。

そのためには、コンピュータを活用し手間をかけた美しい作図やグラフ作成もそれはそれで価値があるだろうが、手軽に早く、それ的確に帯グラフや円グラフが描けるような技能が身に付くことが大切であると考える。



*1 マップスキル研究会は、実践的な地図指導法の研修をおこなっている研究会。毎年夏と冬に研修会が開催されている。会長は東京学芸大学名誉教授の次山信男先生。

*2 香川幹一『略地図描法』1930 古今書院